

VI 北海道災害時 学校支援チーム

- 1 被災地域に対する学校支援事業について
- 2 「北海道災害時学校支援チーム」の派遣について

1 被災地域に対する 学校支援事業について

(1) 事業概要

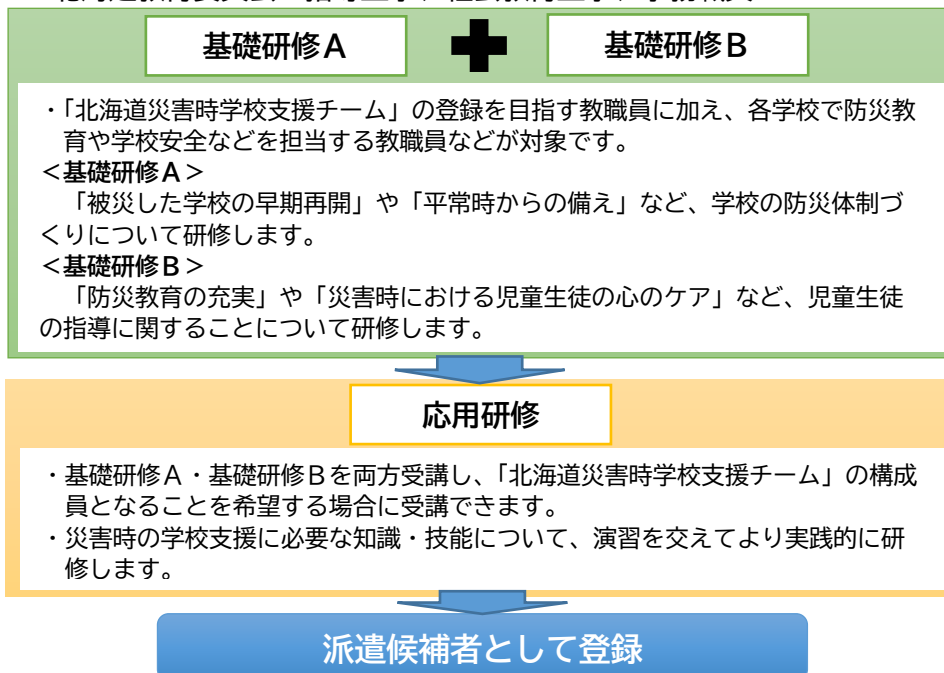
過去、大規模災害が発生した場合に被災地域の多くの学校が休校となり、児童生徒の心のケアや学校教育活動の継続、避難所運営等による教職員の負担や疲労、学校と避難所の共存など、多くの課題が残されました。

阪神・淡路大震災で大きな被害があった兵庫県では、平成 12 年に兵庫県震災・学校支援チーム（EARTH）が発足し、震災の経験を教訓に避難所となった学校への支援活動を開始、その後、今日まで国内外の被災地へ EARTH 員を派遣し、被災した学校の早期再開や、各地で防災教育・防災体制の推進を支援しています。

北海道でも、平成 30 年に発生した胆振東部地震の際に、学校の早期再開や児童生徒の心のケアなどの対応について、兵庫県を始め、全国から多くのご支援をいただきました。その重要性を鑑み、本事業は、平常時からの学校防災体制整備や防災教育を推進する教職員を育成するほか、大規模災害発生時に被災した学校を支援することを目的とした「北海道災害時学校支援チーム」の構成員を養成し、被災地域の市町村教育委員会・学校へ派遣します。

(2) 研修会の実施・構成員の養成

- 対象 ・道立学校及び市町村立学校の主幹教諭、教諭、養護教諭、栄養教諭及び事務職員（市町村立学校職員は、道費負担教職員に限る。）
・北海道教育委員会の指導主事、社会教育主事、事務職員



2 「北海道災害時学校支援チーム」の派遣について

(1) 支援チームの活動内容（例）

- ① 学校再開に向けた体制づくりへの支援
 - ・ 被災状況に応じた対応、心のケア等（障がいのある児童生徒を含めた）児童生徒の対応、保護者との連携、通学路の安全、応急教育の計画・実施、避難所運営、環境整備（災害ごみの処理、物品整理、安全管理等）など、校内体制に関すること
 - ・ 避難所運営組織の設置、校区内の避難状況の確認、通学路等の校内外の安全確保など、PTAや地域住民との連携体制に関すること
 - ・ 学校からスタッフへの要望内容と調整、ボランティアやマスコミへの対応等に関すること など
- ② 短縮授業等の応急教育計画の作成や、給食再開のための計画立案等教育活動の早期再開への支援
 - ・ 学習場所の確保 ・ 応急教育の計画・実施
 - ・ 校内設備・備品等の安全管理
 - ・ 通学路・スクールバス等校内外の安全確保
 - ・ 給食再開のための計画作成、健康の維持 ・ 関係書類の作成 など
- ③ 児童生徒の心のケアに対応する教職員への対処方法等の支援
 - ・ 心と体の健康観察 ・ スクールカウンセラー等との連携、
 - ・ 日常的な関わり、授業の計画・実施、
 - ・ 家庭の被災状況の確認、保護者に対する心のケア等に関すること など
- ④ 教職員の心のケアに対する支援
 - ・ 教職員や支援者のストレス対処法や、注意が必要なサインに関すること など
- ⑤ 学校避難所の開設初期段階への運営支援
 - ・ 避難場所と学習場所の区分け、支援物資の搬入・配付、ダンボールベッド等の配置、トイレの設置、アレルギーや衛生面に配慮した食事の配付など、避難所運営に関すること
 - ・ 住民主体の避難所運営組織の設置や避難所ルールづくりに関すること など

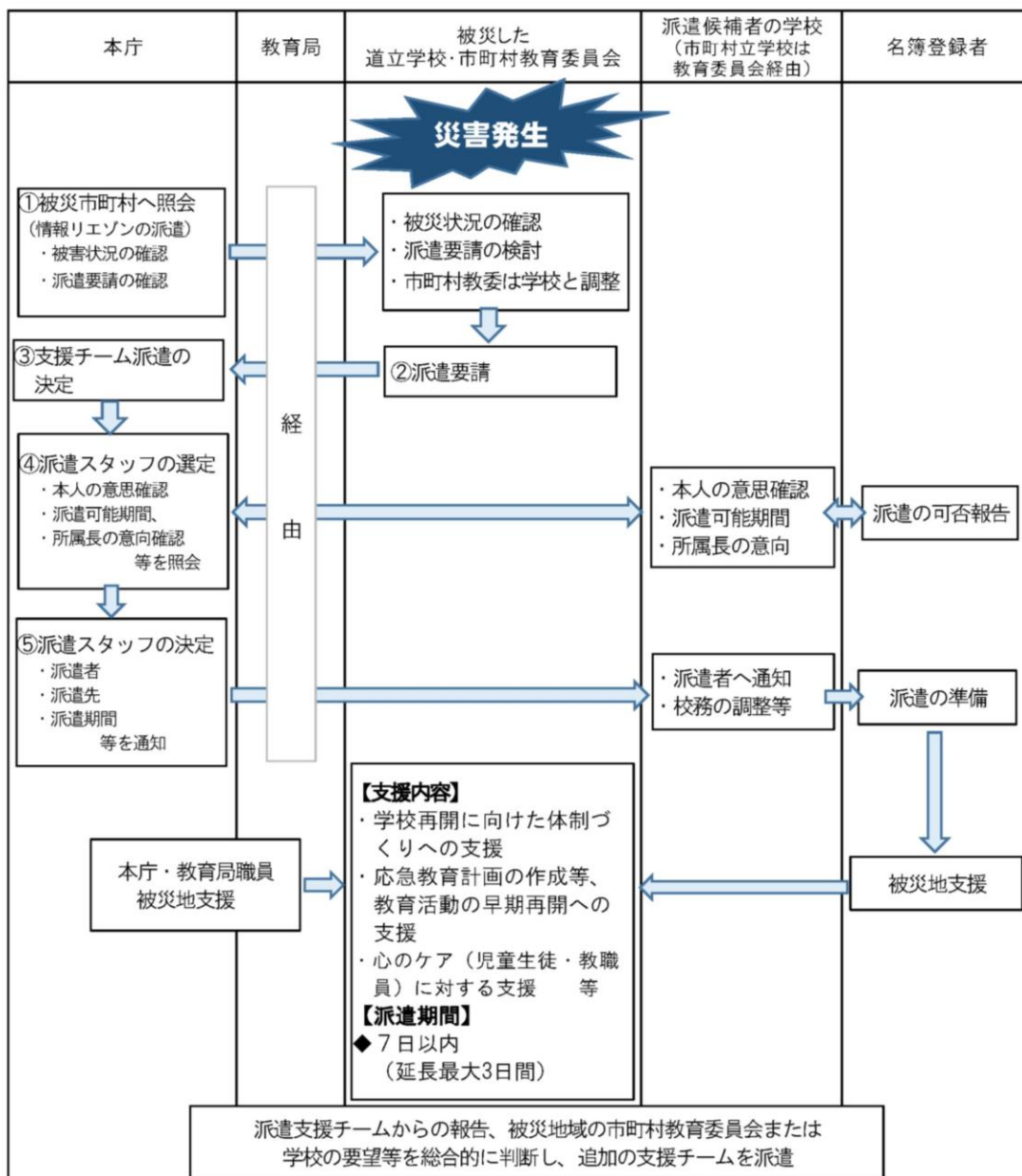
(2) 発災から派遣までの流れ

派遣のフロー図

【北海道災害時学校支援チーム設置運営要綱】

(支援チーム派遣の決定)

第5条 道教委は、**道内で大規模な自然災害等が発生**し、被災地域に所在する複数の学校が休校となるなど通常の教育活動の再開に向けて支援が必要と判断する場合、被災地域の市町村教育委員会または学校から被災の状況、支援チーム派遣の要望、第6条に規定する派遣手続の状況等を確認の上、支援チームの派遣を決定する。



※事務局職員の派遣の流れは省略

派遣時の準備物チェックリスト

① 必ず持参するもの

- チームベスト
- 派遣チームスタッフ証
- 共済組合員証（保険証）
- 本ハンドブック

② 生活・活動に必要なもの

- 安全に配慮した服装（長袖シャツ・長ズボンなど）
- 着替え
- 靴下
- タオル
- 携帯電話・スマートフォン（充電器）
- 救急用品・医療品・常備薬
- ビニール袋
- 雨具（カッパ上下、ウィンドブレーカーなど活動しやすいもの）
- 非常食（アルファ化米、シリアルなど）
- 飲料水（ペットボトル）
- その他、生活必需品（入浴、洗面などの衛生用品等）

被災地域では、停電、断水などのため、平常時のような生活が難しいことが予想されます。非常食やポータブル電源、水のいらないシャンプー、歯磨きや体拭きシートなどの衛生用品等、災害時に役立つグッズをあらかじめ備えておくと、派遣時にも活用できます。また、生理用品などは被災地で手に入りにくくなるので注意が必要です。

③ 状況に応じて必要なもの

- 防寒着
- マスク
- 消毒液
- ウェットティッシュ
- 使い捨て手袋
- 懐中電灯
- 上靴
- 使い捨てカイロ
- 寝袋
- 予備電池
- 軍手
- トイレットペーパー
- 小型ラジオ（手回し発電式）
- 安全靴
- ホイッスル
- ウエストポーチなど貴重品等を携帯できるもの
- 食器（コップ）
- ラップフィルム
- 耳栓
- アイマスク
- クリップボード
- 付せん（7×7cm程度のもの）
- 名刺
- カセットコンロ
- デジタルカメラ
- タブレットパソコン
- 予備バッテリー
- USBフラッシュメモリー
- Wifiルーター

派遣先の状況によっては、宿泊場所を個室で確保することが難しい場合が考えられます。宿泊施設ではない場所での生活や、集団生活になった場合も、健康の維持のために体を休めることができるよう、準備をしましょう。また、健康・安全に留意し活動できるよう、体を保護するものや防寒・体温調節などに使用できるものを準備しておくことも必要です。